

意思をもって主体的に学び、自己を磨き続けられる生徒の育成
～ふり返り活動の指導法改善の歩み～

味岡中学校 武田慎平

1 はじめに

平成29年に小・中学校学習指導要領が改訂されて以降、「対話的・主体的で深い学び」における、「主体的な学び」を追究し、実現させることが、生徒一人一人の更なる成長につながると考えた。「主体的な学び」の実現のためには、以下の二つの機会を通して、生徒が学ぶ意思をもつことが必要であると考えた。一つは、生徒が授業の学習内容が分かった・頑張ることができた実感する機会である。もう一つは、生徒が自分自身で、成長に必要な目標や手だてを考え、実行する機会である。これらの二つには、自分自身との対話によって成立するという共通点があると考え、ふり返り活動に突破口を見いだした。また、私はこれまで、学習課題の研究や授業でのグループ活動、全体の場での指導に対して、特に力を注いできたが、授業の更なる発展や生徒の成長には、ふり返り活動の発展が必要不可欠だと考えた。しかしながら、過去の授業での生徒のふり返りを読み返したところ、その多くは学習内容のまとめと、自分自身の授業の姿の反省などが混在したものであった。私自身の、ふり返り活動の意義や指導法に対する認識が軽薄だったことに気付いた。そこで、ふり返り活動を一から作り直すことを課題とした。ふり返り活動の研究によって、生徒一人一人が学ぶ意思をもち、主体的に授業に取り組むことができるようになることで、自己を磨き続けられる生徒の育成を目指したい。

また、指導要領の改訂に伴い、評価の観点が「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理された。見直しを図るふり返り活動を、適切に評価に活用させられるようにすることによって、より有意義な活動となると考え、ふり返り活動における、新しく整理された評価の観点との関連性や活用法の研究にも挑戦したいと考えた。特に、新設された「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価に対して、どのように活用できるのか迫りたい。

2 目的

ふり返り活動の意義を明らかにし、活動を充実させることで、学ぶ意思をもって主体的に授業に取り組み、自己を磨き続けられる生徒を育てる。また、ふり返り活動を学習評価に活用する。

3 研究の実践内容

まず、ふり返り活動を「学習内容のまとめ」としてのふり返り活動と「自分自身と向き合い、意思を育てる」ふり返り活動の二つに区別して実践し、それぞれの意義を明らかにする。そして、それぞれの活動が、どのように評価に活用できるのか分析する。

(手だて①)「学習内容のまとめ」としてのふり返り活動に関して

授業の最後に行うふり返り活動を、学習内容をまとめることに限定する。

指導のポイントとして、〔資料1〕を作成し、毎回の授業のたびに生徒に提示することで、より目的に則した活動を実践する。スタンフォード大学オンラインハイスクール校長である星友啓氏によると、インプットした情報を脳の記憶力のみによって思い出し、アウトプットすることが、知識の定着

【資料1 指導のポイント】

ポイント①

- ・ できる限り、教科書や資料集を見ないで、まとめよう！
- ・ 「～ということが分かった」は×
- ・ 「～と思った」も×
- ・ 授業での姿も×



今日の授業で学習した内容を全て、文章でまとめよう！
※ 最後に、疑問やどうしても解決できなかったことは加えてOK。

ポイント②

- ・ どのくらいまとめを書くことができましたか？
- ・ その量や内容の詳しさは、もしかすると、あなたの授業に取り組む姿にヒントがあるかもしれないよ？

に最も効果的であると提唱していることから、このふり返し活動も、できる限り教科書や資料集を見ないで、学習内容をまとめさせることで、その効果を得る。「分かったこと」や「思ったこと」というアプローチから文章を書くと、つい内容が偏ってしまったり、脈絡のないまとめになってしまったりする。そこで、学習内容全てを文章でまとめさせることによって、内容の偏りを防ぐとともに、論理的な文章になるように導く。また、〔資料1〕中のポイント②のように問いかけ続け、生徒にまとめの出来栄えと向き合わせることで、自己の学びに対する意思の強さの確認や授業に臨む姿の反省にまでつなげる。

(手だて②)「自分自身と向き合い、意思を育てる」ふり返し活動に関して

生徒が主体的に学ぶためには、生徒自身で、自分の学びに対する姿勢と向き合ったり、自分を成長させるために必要な目標や取り組みを決め、実践したりすることが大切であると考えた。また、自己をふり返ったときに、努力や成長などを実感すれば、心が前向きになり、更に意識や行動が変化すると考えた。そこで、〔資料2〕のようなワークシートを作成し、各単元や定期テストなどを区切りの機会として、カリキュラムの中に組み入れることで、一年間を通して計画的に実施する。

ワークシートには様々な工夫を凝らして、活動の効果を最大限に発揮させる。まず、生徒が短時間で取り組めるよう、目的と内容を厳選し、シンプルなデザインにする。また、〔資料2〕中の①のように、自己評価を一言で簡潔に表現させることで、曖昧さをなくし、はっきりと自分自身と向き合うことができるようにする。そして、②の

ように、自分の成長に必要な取り組みを、自分で考え、実践する活動を設ける。その結果、生徒は意思をもって活動するようになり、生徒の実践に主体性や持続性が生まれ、行動に変化が起きたりすると考える。また、具体的に記述させることで、自分が取り組むべき行動をはっきりとイメージできるようにする。例えば、「授業で発言する。」とだけ書くのではなく、どんなタイミングで、どのように、何を活用して、何回程度など、具体性のある情報を加えることによって、確かな取り組みにすることができる。このように具体性をもたせると、活動の可能性は無限大となり、どこまでも追究することができる。最後に、③のように、自分で考え、決めた取り組みを、意識の中に留める手だてを講じる。生徒は日々の生活の中で、生徒会や学級など、様々な目標に囲まれて生活している。ともすれば、せっかく考えた内容を、忘れてしまうかもしれない。生徒にワークシートの内容をノートや表紙のような、常に目にする場所に転記させることで、授業の度に目標や手立てなどを思い出したり、意識し直したりし、確実に実践することができる。と考える。

単純な活動のようで、それぞれの内容には、上記の通り留意すべき点が多い。形式的な活動にならないよう、ふり返し活動に対して、丁寧できめ細やかな指導を継続するとともに、十分な価値付けをしていく必要がある。また、日々の授業のグループ活動や全

【資料2 実際のワークシート】

2年社会科授業ふりかえり No.1 ~自分から学ぶ・みんなと学ぶことで成長していこう~

☆ 自分自身の授業を取り組む姿をふり返ろう CODE()
自分自身と向き合い、目標を立てて実行する。そして成長を実感し、NAME()
さらに自己を磨くことができる授業にしよう!

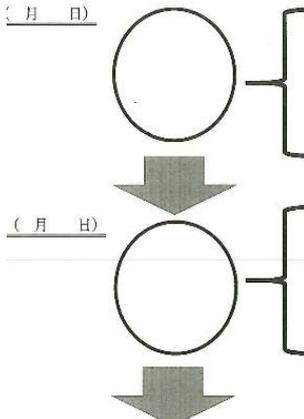
(月 日)

☆ 昨年度の自分を思い出して、これからの授業を通して、自分をより成長させるために必要な取り組みを書こう。具体的に「簡潔に！」

① 授業での、あなたの姿を一言で評価しよう!
(自分から学びに参加しているか、みんなと学んでいるか)
※「普通」「まあまあ」などの曖昧な表現はしない。

② これからの授業を通して、自分をより成長させるために必要な取り組みを書こう。
何を、どうしたらいいのか、どのようにしたらいいのか、具体的に詳しく書えよう。

(月 日)



③ 書いた内容をノートの表紙や表紙など、日々確認できる場所に書き写そう。忘れない手だてを!

(月 日)

体の場など、あらゆる場面において、学びの作法の指導を粘り強く行うからこそ、よりよいふり返し活動が成立するという理解をもち、有機的に実施する。

(手だて③) 評価への活用に関して

学習指導要領の評価に関する観点は「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点である。上記の手だてにある、「学習内容のまとめ」としてのふり返し活動と「自分自身と向き合い、意思を育てる」ふり返し活動がそれぞれ、どの観点で、どのような方法で、評価に活用できるのか考察する。特に、「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価に対してどのように活用できるのか考察する。

4 結果と考察① (「学習内容のまとめ」としてのふり返し活動に関して)

〔資料3〕と〔資料4〕は、同じような学習内容と学習課題で授業を実践した際の、生徒のふり返しとその様子である。生徒のふり返しを比較すると、結果は明らかであった。生徒Aと生徒Bは、教科書や資料集を見ないで取り組ませたが、ふり返りの内容は、生徒Aと生徒Bともに学習内容が非常に詳しく具体的に書くことができている。生徒Bは、やや学力が低い生徒であるが、授業で学習したことを、自分の力で十分にまとめることができている。

【資料3 令和元年度の生徒のふり返し】

福井県のメープルは、その場の気候が関係していることをくまが言っていて、なるほど!と思いました。他にもなんでだろう?と思うと、おもしろい地形や気候と関連付けて考えようと思いました。

【資料4 令和4年度の生徒の活動の様子とふり返し】

授業の最後に行うふり返し活動を、学習内容をまとめることに限定して生徒に取り組ませたことによって、生徒は何を書いたらよいか、明確になり、より詳しく記述することができたと考える。そして、「学習内容全て」をまとめさせているからこそ、ふり返りの内容が、「分かったこと」のみに偏ることなく、包括的かつ、具体的に考えたことを加えて、〔資料4〕の生徒A・Bのように、教科書や資料集などをできる限り使わずに、学習内容をまとめられるということは、知識や思考の整理ができてい



生徒A

〈まとめ〉
北陸は豪雪地帯であり、冬の降水量が多いことが産業に大きく関連している。12月は、稲作で新潟や富山では、夏と春とミネラルを豊富に含んだ雪解け水を使い、秋の長雨と11月早稲米を生産し、1年中盛んになっている。また、平野(広い)があることも稲作に通じる。また、冬の雪が多く落葉林ではないため、稲作は副業として家でできるメープルやえんぴすのやわばりなどをしてかき取り、そのかき取り産物として発展したという歴史もある。
ブランド米として有名にはな。

生徒B

〈まとめ〉北陸で発達している産業は主に米で理由としては冬に降水量が多い。しかも雪にミネラルが含まれているから春の気温が上がる雪が溶けて雪解け水がミネラル入りの水。米がおいしい理由もあと水田率が高い。これは平野だ。川の水(山が溶けた水)も利用して、稲作が育つ。冬から米は農家の収入だし川が北陸は雪が多いから農業ができないので伝統工芸品を作っている。

たり、知識が定着したりしていると考え。また、生徒は、その日のまとめの出来栄と向き合うことで、「自分の力でここまでまとめられた。手ごたえがあるぞ。この調子で次の授業も取り組もう!」や「今回はあまりまとめることができなかったから、次の授業はもっと頑張ろう!」などと感じる機会にもなる。生徒の「分かった」や「できた」はもちろんのこと、「なかなかできなかった」などと、実感することが、主体性の向上にもつながると考える。

以上のことから、このふり返し活動の意義は、生徒が授業を通して得た知識や授業で思考したことを整理したり、知識の定着を図ったりすることと、自己の授業の取り組みの具合をふり返ったりすることに最適の活動であると考察する。

5 結果と考察② (「自分自身と向き合い、意思を育てる」ふり返し活動に関して)

自身で成長のために必要な取り組みを考え、工夫して実践するからこそ、意思が生まれ、活動が主体的になると考える。このふり返し活動は、まさに、生徒に学ぶ意思をもたせ、主体性を高めるための非常に重要な活動であると考察する。

6 結果と考察③（評価への活用に関して）

（ア）「学習内容のまとめ」としてのふり返し活動に関しての評価について

指導要領の3観点の中の「知識・技能」の観点に該当すると考える。評価をするために、〔資料7〕を作成し、〔資料4〕の生徒Bのふり返しで実践すると、〔資料8〕のようにすることができる。つまり、今回の生徒Bのふり返しは、A評価のデータとして、評価に活用することができる。毎回の授業で実践する必要はないが、教師側で意図的に回数を定めて実践することで、定期テストや小テスト形式以外の場として、生徒の「知識・技能」の観点に関するデータを収集・蓄積することは可能であるので、評価に活用する上でも、大変意義深い活動であると言える。授業中の生徒の発言の内容を聞き取って、その場で記録や評価をとると、評価の基準が曖昧になってしまうし、評価をとることが授業の目的になってしまう。また、評価の対象者が発言できる生徒に限られてしまう。しかしながら、この方法なら、日々の授業における生徒のふり返しを集めるので、生徒全員の評価をつける機会を保障できる上に、じっくりと基準に沿った評価をつけることができ、有効な方法になったと考察する。また、生徒に、授業での学習内容を活用させ、思考力を問うような内容をふり返しとして書かせることで、「思考・判断・表現」の観点に関するデータを収集できるので、応用した活用までも可能であると考察する。

（イ）「自分自身と向き合い、意思を育てる」ふり返し活動に関しての評価について

指導要領の3観点の「主体的に学習に取り組む態度」に該当すると考える。評価をつける際に、文部科学省国立教育政策研究所から出された〔資料9〕を参考にすると、「自分自身と向き合い、意思を育てる」ふり返し活動は、横軸である、粘り強い取り組みを行おうとする側面に関する内容になると考える。ワークシートを評価に生かすために、その使い方を〔資料10〕の①と②の二つに分けた。

①は、教師がつけた評価の精度をより高めるために使う。特に、教師のある生徒に対する評価と、その生徒の②の自己評価との間に不一致が起きた場合、互いの認識にず

【資料7 評価をつける】

- 1 単元 日本の諸地域
- 2 学習課題 北陸で発展している産業は？
- 3 知識・技能における本時の目標
 - 北陸の農業や工業の特色を地形や気候などの資料から調べることができる。
 - 北陸の農業や伝統産業、地場産業の特色を自分の言葉で文章にしてまとめることができる。
- 4 ふり返しで知識を評価する具体的な記述内容
 - ① 越後平野などの平野部で稲作がさかん。
 - ② 季節風によって冬の降水量が多く、雪解け水として活用される。また、雪解け水は、ミネラルを含み、おいしいお米作りに活かされる。
 - ③ 秋の長雨をさげ、出荷時期を早めたり(早場米)、品種改良を行ったりしている。
 - ④ 冬は雪が降るため閉農期に入る。
 - ⑤ 副業として行われていた産業が、今でも伝統産業や地場産業として残っている。
- 5 本時の授業内容での評価の基準

4で挙げたもの記述内容のうち、生徒がふり返しで書いた項目の個数の割合で、以下のように評価する

80%以上 A
50%以上80%未満 B
50%未満 C

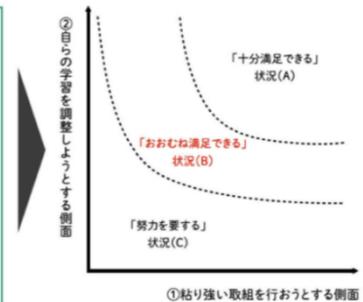
【資料8 実際の評価】

（手書きの）北陸で発展している産業は主に米でその理由として冬に降水量が多い。しかも雪にミネラルが含まれているから春から夏にかけて雪がとけて雪解け水がミネラルを含んでお米がおいしい理由はお米田舎が高い。それは平野部だし、川の水は清流（水）を利用して、お米が育つ。春から秋は農家の人が忙しいけれど、北陸は雪が多いので農業ができないので伝統工芸品を作っている。 **A**

【資料9 「主体的に取り組む態度」の評価イメージ】

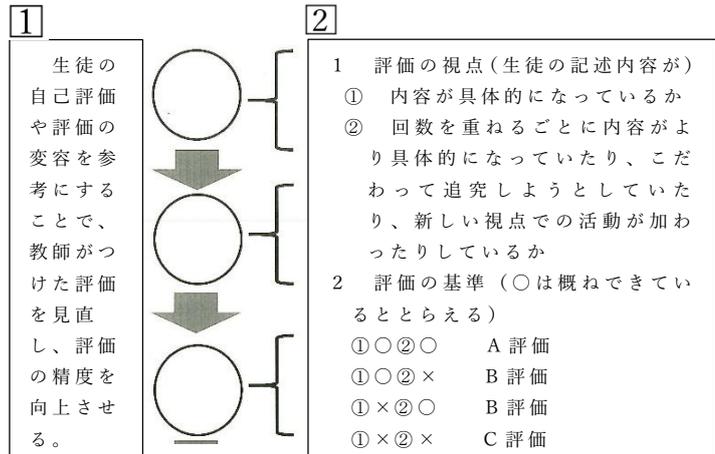
○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



れが生じていることになる。あくまでも生徒による自己評価なので、生徒によって評価の基準は相対的であり、個に応じて自己評価を読み取ることが必要である。しかしながら、教師はもう一度、これまでに自分が収集したデータを見直し、見落としがないか確認をしたり、生徒が納得するだけの理由を揃えたり、あらためて生徒の授業の様子をよく観察したりして、より精度の高い評価をつける機会を得ることができる。生徒の自己評価は直接評価に反映することはできないが、①の活用

【資料10 ワークシートから評価をつける】



の意義は非常に大きいものだと考える。②は実際に、粘り強い取り組みを行おうとする側面の評価に反映させるために使う。ワークシートには、生徒の自分自身の成長に向けた考えや取り組み、それにかける思いまでもが詰まっている。また、実際に生徒が取り組んだ内容やその様子までも読み取ることができる。教師が客観的に評価をつけることで、重要な参考データを収集することができると思う。実際に、②の方法で資料5のワークシートの6月から11月を評価すると、①○②○の結果になり、A 評価となる。ワークシートの他に収集している、粘り強い取り組みを行おうとする側面に関するデータと加えることで、より確かな評価をつけることができると思う。

文部科学省国立教育政策研究所が発行する「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料には、「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、ノートやレポート等における記述、授業での発言、教師による行動観察や児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられると記されている。ワークシートを評価に活用した①・②の方法は、まさに上記の「児童生徒による自己評価や相互評価」に当てはまり、評価に対してもそれぞれ、大変重要な役割を果たすと考察する。

7 おわりに

ふり振り返り活動の意義を見だし、区別して実践することで、それぞれの本来の効果を十分に発揮させることができたと思っている。魅力的な教材や生徒同士の関わりを中心とした授業展開の追究に力を注ぎがちであったが、最終的には自分自身で学習内容や自己と向き合うふり振り返り活動の重要性を再認識した。何より、授業をしていて生徒が主体的に学んでいることを、生徒の様子から実感できるようになった。主体的に学ぼうとする生徒の数も確実に増加した。「自分自身と向き合い、意思を育てる」ふり振り返り活動に関しては、研究に着手して5年経った。何度も試行錯誤を繰り返した結果、今となっては、生徒の主体的な学びを支える上で、必要不可欠であり、唯一無二の活動となった。ただ生徒に、ワークシートを記入させるから主体性が向上するものではない。その背景には、日頃の授業から粘り強く生徒に、授業に取り組む際に大切な視点や活動、その価値を与え続けたことも要因である。見方を変えると、私自身の指導力の更なる向上という、大きな副産物を得た。評価においても、評価のために行うふり振り返り活動ではなく、生徒を成長させるための活動が、生徒を適切に評価する材料にもなるということが明らかになった。

勿論、課題も存在する。授業は日々、時間との闘いである中で、「学習内容のまとめ」としてのふり振り返り活動は、5分以上の時間を確保する必要がある。より緻密なタイムマネジメントはもちろんのこと、カリキュラムマネジメントや一時間における授業の活動内容の改善等の必要もある。「自分自身と向き合い、意思を育てる」ふり振り返り活動では、生徒の単

元観や社会的な見方・考え方の意識を深めることで、自己を成長させる取り組みにしたい。
また、粘り強い取り組みの向上と学習の調整力との相関関係を分析し、取り組む内容や指導と評価がより一体化する振り返り活動を目指したい。これからも研究や研鑽を重ね、授業の発展と生徒の成長に情熱を注ぐとともに、本校や小牧市の教育の発展を志したい。